

第4期講座 5月9日に開講

受講生の募集開始 8月末まで4カ月間



にいがた映画塾通信

第四号(九九冬)

編集・発行

にいがた映画塾

〒950-0086
新潟市花園2-3-2 飛鳥ビル1F
電話・ファクス
025-248-9088



配布が始まった4期募集のチラシの表

風薫る五月、今年も「にいがた映画塾」の実践講座が開講する。「第四期」となる今回はゴールデンウィーク後の九日から始まる。このほどチラシも完成し、受講生の募集が始まった。八月に行われる恒例の本撮影に向けて、熱く充実した四カ月間になることは確実だ。

県内外のプロの講師をに、一九九七年一月に始招き、映画の基礎から制まった。昨年八月までに作までを学ぶ、全国的に三回の講座を行い、百三モユニークな「にいがた」十二人が受講。卒業生の映画塾・映像実践講座」多くは、インディーズ映は、手塚眞監督の映画「像作家として多くの作品「白痴」の新潟制作を機を生み出している。

第四期は一月十二日の定例会で開講を正式決定、ただちに「第四期実行委員会」が構成された。今回の講座は「にいがた映画塾」がNPO(民間非営利団体)として再出発しての最初の講座となるため、スタッフも気合いが入っている。カリキュラムの内容は実行委員会で話し合いが進められているが、「白痴」制作と同時進行だった三期が「デモンストレーション」的な要素が強いのに比べ、四期は「受講生の今後の個人制作に役立つものを教える」という方向性のようだ。

とはいえ「映画制作に何が必要か、どうしたら満足を得られるか」について、スタッフ一人ひとりの考え方は違う。そのためカリキュラムの具体化に向けて、スタッフの激論が続いている。

二月十六日までに期間は五月九日から八月下旬、映画の理論から実践まで学習し、全員が映画を制作する。定員四十人。選考せず、定員になり次第募集締め切り。などの方針がまとまった。チラシはシネウインド内に幅広く告知したい



実行委員会のスタッフ会議

専用電話入りました
映画塾志願の「専用電話」が九八年末に入った。新しい電話番号は025-248-9088(ファクス兼用)。

これまで映画「白痴」制作準備室や、ナシモトタ才氏率いる「innout」などの電話に寄生虫のように頼っていたが、やはり専用線が必要だということに苦しい予算をやりくりすることになった。ただ、電話の権利も電話機も理解者からの借り物。事務局では引き続き会費納入と、ファクス付き電話の寄付を呼び掛けている。

映画塾ホームページで最新情報をご覧になります
<http://www.allies.or.jp/~thoshi/nei.html>

この3カ月

- 98年11月17日 22日 第2回定例会
第2回「にいがたインディーズムービー・フェスティバル」(シネ・ウインド)
約300人が来場。応募28本(21本は映画塾関係)などを上映
- 12月 2日 8日 第3回定例会
小林茂氏・映像と作品展「こどもの宇宙(そら)」(ギャラリー「リターナ」)
小林氏の写真展「ウガンダに生まれて」と初の映画監督作品「放課後」の上映を中心に、夜は日替わりで映像、教育、福祉などをテーマにしたイベントを行い、7日間で800人近い観客が訪れた。
- 9日 15日 11日 細井鉄郎(3期)らがグループ展(蔵) 月イチ上映会1(映画塾作品特集) (RoomNo.2001)
- 15日 20日 第4回定例会 忘年会
- 99年 1月 8日 10日 12日 19日 25日 30日 2月 2日 12日 第5回定例会 第6回定例会 樋口美雪写真展(事務所) 第7回定例会 月イチ上映会3(ビデオ特集) (RoomNo.2001)
- 16日 第8回定例会

これから3カ月

- 2月21日 28日 神文哲(3期)らがグループ展(蔵)
11時 19時(初日は15時から、最終日17時まで)無料
「シンク」を上映
17時 料金は第5号参照(シネ・ウインド)
- 3月 2日 12日 第9回定例会 20時 月イチ上映会4(大橋健一特集) 20時 無料(RoomNo.2001)
- 16日 20日 第10回定例会 20時 劇団MAMEカラット公演、3期OBが出演
16時、19時 800円(万代市民会館)
- 4月 6日 9日 第11回定例会 20時 月イチ上映会5(内容未定) 20時 無料(RoomNo.2001)
- 20日 5月 4日 7日 9日 18日 第12回定例会 20時 第13回定例会 20時(GWで変更の場合も) 月イチ上映会6(内容未定) 20時 無料 第4期講座開講(万代市民会館) 第14回定例会 20時

一時は立ち見客も



手作りの味 レインデイズ レポート

去年の五月のハナシ。「よっしゃ、俺、実行委員長やるツス」と勢いで実行委員長を引き受け、「アタタの映画見せてやれっ! その2」はスタートしました。

今回は第一回目の反省や、三回目以降にいかすために新しいことをいろいろやりました。たとえば郵送でのみ受け付けずるとか、入場料は一千円

に値上げてみようとか。実はそれぞれちゃんとした理由があったので。ま、最終的にはちよつとなあなあになつてしまったところとかあったんですけどね。

今回やって途中で「一体誰のための上映会なのか考えてみるよ」と言われたことがありまして。それまでドタバタしていたところにスカイ映画館でやるのが武道館やドームのライブな

昨年十二月一日〜八日、「小林茂・映画と写真展」こどもの宇宙(そら)を開催した。

内容は小林茂第一回監督作品・映画「放課後」の上映と写真展「ウガンダに生まれて」の開催、

他に「子供」「映画」をテーマにした連日のイベント。祭りのような一週間だった。

小林茂「コバさんといえば、身を乗り出して熱く映像を語る姿が頭が浮かぶ。その力強さはその

お祭りの1週間コバ展

さつたみなさん、ありがとうございました。「その3」もヨロシクね。

実行委員長・平淳一郎



コバさん(左)と観衆

まま作品に満ちていた。映画「放課後」は学童保育所つばさクラブの一日を描いた二十分。スクリーンからあふれる様な生き生きとした子供達と一緒に踊り出したくなっていた。

写真展では、窓越しに向かい合うかの様に、生命力充ちた色鮮やかなウガンダが、すぐそこにあつた。まるで空気がつながつている様だった。写真はすべてノートリミング、と聞いたときの驚きはことあるごとに蘇る。すこしい。

八百人近い来場者とかくさんの協力で支えられ祭りは終わった。感謝。次回作、映画「自転車」。公開が待ち遠しい。

実行委員長・高橋美香